

和歌山病院での実習を終えて



榎本 武典

今回、私は第三内科のポリクリの一環として12月18、19日の二日間和歌山病院で実習させていただきました。

駿田先生の講義では結核やその感染予防に関して教科書の内容を丸暗記しているだけで本質を理解できていない事を実感させられました。まずわたしは結核がどのように人に感染していくかを順序立てて考えたことがなく、ただ空気感染という言葉を鵜呑みにして分かった気になっていました。そこから考えればどのような感染対策が必要で、逆にそこまでの対策は必要でないかが自ずと分かるということを教わりました。講義のあとのN95マスクを着用しての病棟見学は実際に結核病棟の構造を目で見ることが出来てすごく貴重な体験でした。

また南方先生の講義では教科書を読むだけではなかなか会得できないようなレントゲン画像の仕組みを論理的に考える方法について、実際に自分たちで考えて議論しながら納得できるまで教えていただきました。この講義が今までは苦手意識が強く考えることから逃げていた読影を論理的に考えて向き合うきっかけになったと感じています。また自分の体を動かして肺の区域を記憶に定着させる「ブロンコ体操」も教えていただき、これからも忘れないように実践していきたいと思いました。

この二日間実習させていただいて私は論理立てて考えることの大切さを改めて感じさせられました。本当に有意義な二日間でした。お忙しい中、私たちに時間を割いて下さった南方先生をはじめ諸先生方ありがとうございました。